インバウンドの「変化の兆し」をいち早く

都道府県別訪日外客数と訪問率

月次指標の早期推計：9 月レポート

野村亮輔（副主任研究員）
稲田義久（APIR 研究統括兼数量経済分析センター長）
松林洋一（APIR 上席研究員）
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail: contact@apir.or.jp

ポイント

●10 月発表データのレビュー：JNTO 訪日外客数

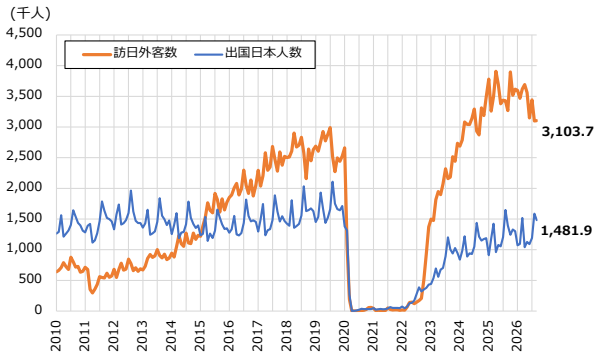
▶JNTO 訪日外客統計によれば(図 1 及び表 4)、**9 月の訪日外客総数(推計値)は 310 万 3,700 人**であった。前年同月比-5.0%、**2 カ月連続のマイナス**。中国人客の大幅減少が続くなか、9 月は台風による航空便の欠航や航空券価格上昇も下押し要因となり、訪日外客数全体を押し下げた。一方、**同月の出国日本人数**は **148 万 1,900 人**、同+6.3%と **3 カ月ぶりのプラス**となった。なお、2019 年同月比では-15.4%となり、前月の同-24.7%から減少幅は縮小した。

▶訪日外客数のトップ 5 を国・地域別にみると(図 2 及び表 4)、9 月は**韓国が 84 万 2,300 人**(前年同月比+25.6%)**と最多**を記録。次いで台湾が 59 万 5,600 人(同+13.0%)、中国が 43 万 800 人(同-44.5%)、米国が 21 万 7,500 人(同-3.2%)、香港が 14 万 5,000 人(同-3.0%)、と続く。**日中関係悪化の影響が続いており、中国人客は 10 カ月連続で大幅減少**した。

▶**目的別訪日外客総数(暫定値)**をみれば(表 5)、**7 月は 344 万 2,310 人**となった。前年同月比+0.2%、小幅ながら 4 カ月ぶりのプラス(前月:同-6.8%)。うち、**観光客は 319 万 2,300 人**で、伸びは同+1.0%と **4 カ月ぶりのプラス**(前月：同-6.8%)。台湾人客と韓国人客が増加に寄与した。一方、その他客は 16 万 4,752 人、商用客は 8 万 5,258 人であった。伸びをみれば、その他客は同-7.0%と 2 カ月連続で、商用客は同-13.4%と 6 カ月連続でそれぞれマイナスとなった。

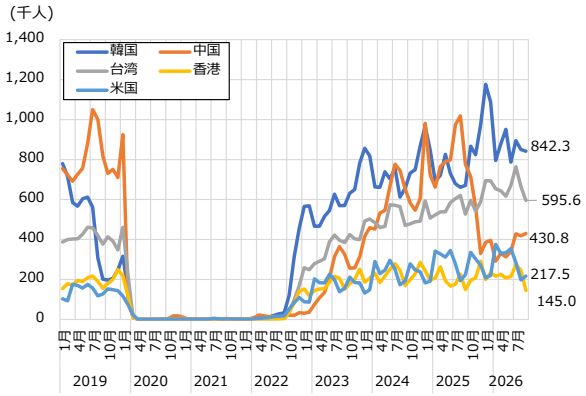
▶**【今月のトピックス】**7 月 26 日に「**飛鳥・藤原の宮都**」が**世界遺産登録**となって 3 カ月が経過した。この間、**自治体**はプロモーション活動を精力的に行っており、**国内外の観光客の誘客に取り組んでいる**。今号のレポートでは**世界遺産に関連する自治体**(橿原市、桜井市と明日香村)**への観光客数**を「デジタル観光統計オープンデータ」で確認し、足下の状況を概観する。10 月の状況をみれば、橿原市 12 万 20 人(前年同月比+7.2%)が最も多く、次いで明日香村 11 万 8,638 人(**同+104.8%**)、桜井市 9 万 5,468 人(同+15.2%)となっている(図 3)。中でも、**明日香村は世界遺産登録以降、観光客数が着実に増加**しているのが特徴的である。一方、世界遺産登録後に観光客数が急増しオーバーツーリズム現象をもたらすことが多い。これを未然に防止するためにも、今後は持続可能な観光地経営が必要となろう。そのためにも、県内のその他の世界遺産を巡る仕掛け作りも重要となる。

図 1　訪日外客数及び出国日本人数の推移



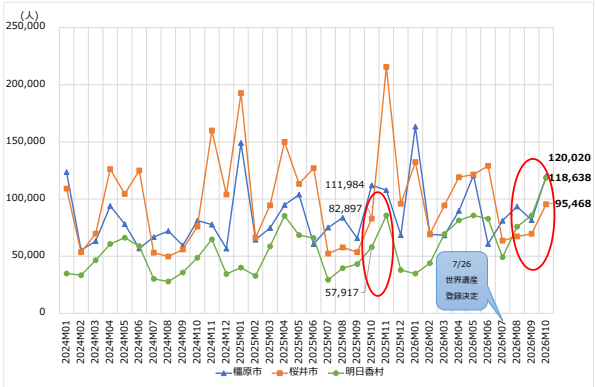
注：2025 年まで確定値、26 年 7 月は暫定値
　　2026 年 8-9 月は推計値
出所：日本政府観光局(JNTO)「訪日外客統計」より筆者作成

図 2 上位 5 ヵ国・地域別訪日外客数の推移



注：なお、TOP5 の国・地域は値を表示している
出所：日本政府観光局(JNTO)「訪日外客統計」より筆者作成

図 3　「飛鳥・藤原の宮都」関連の観光客数の推移



注：ここでの観光来訪者とは、日本国内に居住する者で日常生活圏以外の観光地点を訪れた者。なお、１人の観光来訪者が一日のうちに当該都道府県あるいは市町村内の複数の観光地点を訪れたとしても、１人とカウントしている。
出所：公益社団法人日本観光振興協会「デジタル観光統計オープンデータ」より筆者作成

*なお、観光庁「訪日外国人消費動向調査」の訪問率のデータが 2023 年 9 月から公表が再開された。このため、中断していた訪問率の月次推計についてはデータの蓄積を待って今後再開する予定である。

トピックス 1

●9 月関西の財貨・サービス貿易の動向

▶**関西 9 月の輸出額**は前年同月比+26.1%と **24 カ月連続の増加**、7 カ月連続で 2 桁の伸びを記録した。AI 関連需要の爆発的な拡大が続いており、アジア向けを中心に半導体関連財が引き続き輸出増に寄与した。また、**輸入額は**同+24.6%と **8 カ月連続の増加**となった。結果、**関西の貿易収支**は+3,778 億円と **20 カ月連続の黒字**。黒字幅は同+35.0%と 3 カ月ぶりに拡大した(図 4)。

▶対中国貿易動向をみると(図 5)、**関西 9 月の対中国輸出**は前年同月比+15.5%と **7 カ月連続で増加**した。輸出増に寄与したのは、プラスチックや半導体等電子部品等であった。また、**対中国輸入**は同+23.1%と **11 カ月連続の増加**となった。輸入増に寄与したのは、通信機や衣類及び同付属品等であった。結果、対中国貿易収支は-1,228 億円と 3 カ月ぶりに赤字となった。

▶**9 月の関西国際空港**(以下、関空)**への訪日外客数は 68 万 7,464 人**であった(図 6)。前年同月比-17.8%と **10 カ月連続で減少**し、**且つ 6 カ月連続で 2 桁のマイナス**となった(前月：同-24.2%)。中国人客の訪日自粛の影響が続いており、外国人入国者数は低迷している。また、日本人出国者数は 29 万 5,159 人であった。前年同月比+9.2%と 3 カ月ぶりの増加(前月：同-4.4%)。なお、2019 年同月比では-12.5%と、減少幅は前月の同-25.1%から縮小した。

▶サービス業の生産活動を示す**第 3 次産業活動指数**(季節調整済み：2019-20 年平均=100)をみれば(図 7)、**9 月**は 105.7 で前月比-0.5%と **2 カ月連続のマイナス**となった(前月：同-0.7%)。経産省は基調判断を「足踏みがみられる」と前月の「一部に足踏みがみられるものの、持ち直し傾向にある」から下方修正した。一方、**対面型サービス業指数***は 107.8 で同+0.1%、小幅ながら **4 カ月連続のプラス**(前月：同+1.1%)。うち、生活関連サービス業、娯楽業(同+2.1%、2 カ月ぶり)や運輸業、郵便業(同+0.2%、2 カ月連続)などが上昇に寄与した。7-9 月期の第 3 次産業活動指数は前期比-0.2%と 7 四半期ぶりに低下した(4-6 月期：同+0.5%)。一方、対面型サービス業指数は同+0.8%と 2 四半期ぶりに上昇した(4-6 月期：同-0.3%)。

▶9 月の**観光関連指数****(季節調整済み:2019-20 年平均=100)は(図 7)、111.3 と前月比+0.1%と小幅ながら**3 カ月連続のプラス**となった(前月：同+0.1%)。うち、劇場・興行団(同+1.8%、2 カ月ぶり)旅客運送業(同+0.4%、3 カ月連続)などが上昇に寄与した。7-9 月月期の観光関連指数は前期比+0.2%と小幅ながら 3 四半期ぶりに上昇した(4-6 月期：同-0.9%)。

*対面型サービス業は、「運輸業、郵便業」、「宿泊業、飲食サービス業」、「生活関連サービス業、娯楽業」、「学習支援業」及び「医療、福祉」を指す。

**観光関連指数は第 3 次産業活動指数のうち、「旅客運送業」、「宿泊業、飲食サービス業」、「旅行業」、「映画館」、「劇場・興行団」及び「公園、遊園地・テーマパーク」の各指数の加重平均。

図 4　関西 対世界貿易の推移

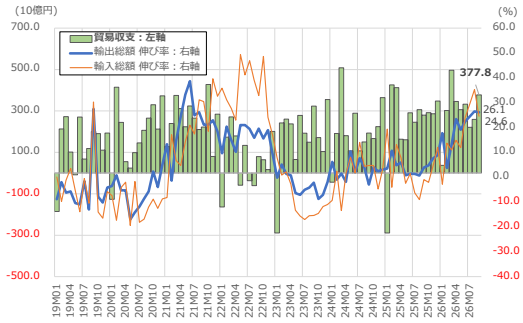
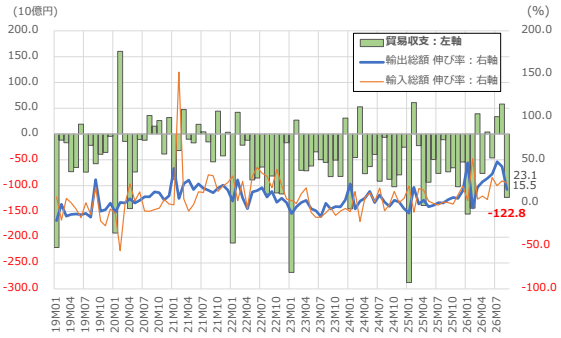
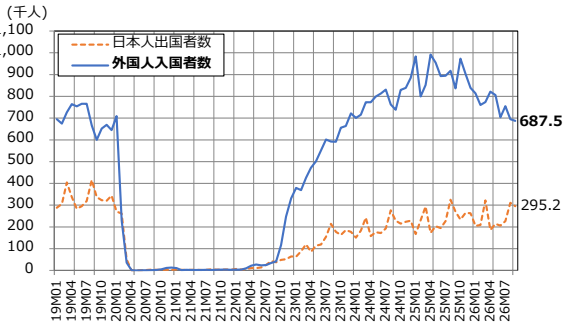


図 5　関西 対中国貿易の推移



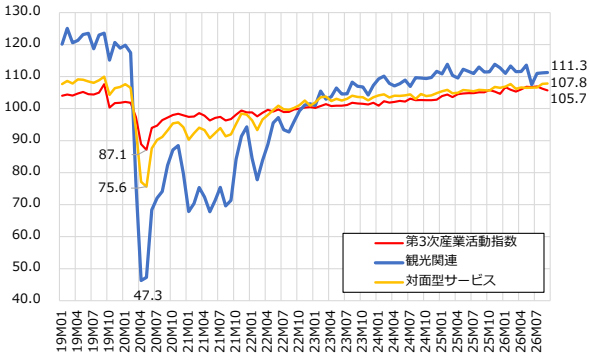
出所：『大阪税関貿易速報資料：近畿圏』
より筆者作成(図 4～5)

図 6　関西国際空港 訪日外客入国者数推移



出所：出入国管理統計より筆者作成。2026 年 9 月値は速報値

図 7 第 3 次産業活動指数の推移：2019-20 年平均=100



出所：経済産業省「第 3 次産業活動指数」より筆者作成

トピックス 2

●7 月延べ宿泊者数の動向：関西 2 府 8 県

▶観光庁によれば、**7 月の関西 2 府 8 県の延べ宿泊者数(全体)は 10,729.6 千人泊**(表 1)。**前年同月比-6.6%と 9 カ月連続の減少**だが、減少幅は前月(同-15.3%)から幾分縮小した。日本人、外国人延べ宿泊者はいずれも減少が続いており、**宿泊需要は依然低迷**している。

▶7 月の**日本人延べ宿泊者数は 7,297.0 千人泊**となった。**前年同月比-4.4%と 9 カ月連続で減少**した(表 1 及び図 8)。**府県別**にみれば、大阪府 2,304.2 千人泊と最も多く、次いで、兵庫県 1,231.9 千人泊、京都府 1,166.8 千人泊となった。また、三重県 728.3 千人泊、和歌山県 443.4 千人泊、滋賀県 410.4 人泊、福井県 358.2 千人泊、奈良県 253.2 千人泊、鳥取県 211.0 千人泊、徳島県 189.5 千人泊であった。**前年同月比**(-4.4%)**に対する寄与度**をみれば、**減少に寄与**したのは、**大阪府**(同-6.7%ﾎﾟｲﾝﾄ)、**三重県**(同-0.8%ﾎﾟｲﾝﾄ)、**徳島県**(同-0.3%ﾎﾟｲﾝﾄ)等の **4 府県**であった。なお、京都府は 4 カ月ぶりの増加に転じた。

▶7 月の**外国人延べ宿泊者数は 3,432.6 千人泊**であった(表 1 及び図 9)。**前年同月比-10.9%と 13 カ月連続で減少**した。**府県別**にみれば、大阪府 1,798.5 千人泊、京都府 1,249.1 千人泊と 2 府への集中が依然続いている。また、兵庫県 177.2 千人泊、和歌山県 73.0 千人泊、三重県 37.7 千人泊、奈良県 32.7 千人泊、滋賀県 20.3 千人泊、鳥取県 19.1 千人泊、徳島県 16.4 千人泊、福井県 8.6 千人泊であった。**前年同月比**(-10.9%)**への寄与度**をみれば、**京都府**(同-5.8%ﾎﾟｲﾝﾄ)、**大阪府**(同-5.5%ﾎﾟｲﾝﾄ)、**奈良県**(同-0.4%ﾎﾟｲﾝﾄ)等の **6 府県が外国人延べ宿泊者の減少に寄与**した。京都府では 9 カ月連続で、大阪府では 2026 年 2 月を除けば 25 年 6 月以降、それぞれ減少が続いている。

▶なお、宿泊料金と賃金との交易条件(現金給与総額/宿泊料金：2019 年＝100)をみれば、2026 年 9 月は 78.8 となった。前年同月比-0.6%と 4 カ月ぶりに悪化した。9 月の大型連休の影響もあり、宿泊料金の伸びが同+5.7%と前月(同-0.2%)から大幅プラスに転じたことが影響した(図 10)。

図 8　府県別日本人延べ宿泊者数 推移

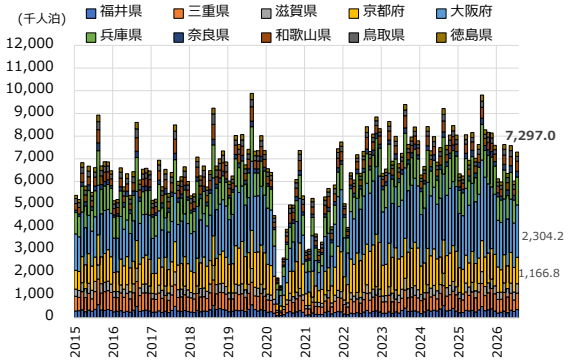


図 9　府県別外国人延べ宿泊者数の推移

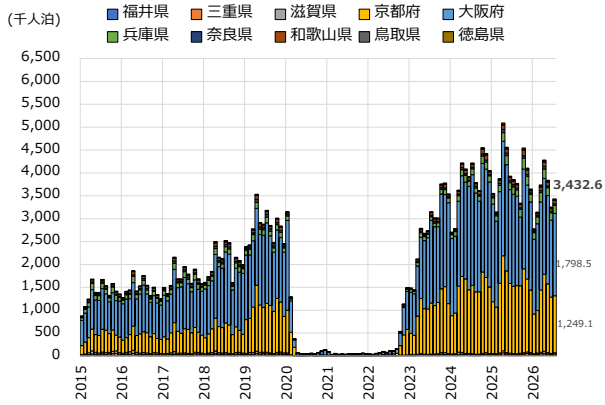
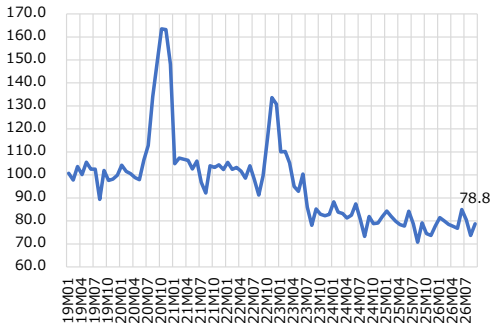


図 10　宿泊料金と賃金の交易条件



注：交易条件は賃金(現金給与総額)を宿泊料金(消費者物価)で除した指数。2019 年平均を 100

出所：総務省統計局『消費者物価指数』及び厚生労働省『毎月勤労統計調査』より筆者作成

表 1　関西 延べ宿泊者数伸び率：7 月

	総数				日本人				外国人			
	延べ宿泊者数：(千人泊)	前年比伸び率：当月(%)	当月寄与度(%ポイント)	前年比伸び率：前月(%)	延べ宿泊者数：(千人泊)	前年比伸び率：当月(%)	当月寄与度(%ポイント)	前年比伸び率：前月(%)	延べ宿泊者数：(千人泊)	前年比伸び率：当月(%)	当月寄与度(%ポイント)	前年比伸び率：前月(%)
福井県	366.8	3.9	0.1	8.2	358.2	3.2	0.1	7.6	8.6	46.8	0.1	28.1
三重県	766.1	-5.5	-0.4	-19.2	728.3	-7.4	-0.8	-18.9	37.7	58.8	0.4	-25.0
滋賀県	430.7	9.0	0.3	13.6	410.4	9.6	0.5	14.1	20.3	-2.5	-0.0	6.4
京都府	2,415.9	-6.8	-1.5	-15.0	1,166.8	4.1	0.6	-9.8	1,249.1	-15.1	-5.8	-19.2
大阪府	4,102.7	-14.9	-6.3	-23.8	2,304.2	-18.1	-6.7	-28.2	1,798.5	-10.5	-5.5	-18.0
兵庫県	1,409.1	3.9	0.5	-3.0	1,231.9	3.3	0.5	-4.4	177.2	8.1	0.3	6.3
奈良県	285.9	11.5	0.3	-4.1	253.2	21.0	0.6	2.2	32.7	-30.8	-0.4	-32.7
和歌山県	516.4	19.8	0.7	-14.4	443.4	23.3	1.1	-15.0	73.0	2.4	0.0	-11.6
鳥取県	230.1	-3.6	-0.1	18.7	211.0	-2.4	-0.1	17.6	19.1	-14.9	-0.1	30.3
徳島県	205.9	-10.9	-0.2	-3.9	189.5	-11.7	-0.3	-3.8	16.4	-0.4	-0.0	-4.9
関西2府8県	**10,729.6**	**-6.6**	**-6.6**	**-15.3**	**7,297.0**	**-4.4**	**-4.4**	**-14.3**	**3,432.6**	**-10.9**	**-10.9**	**-17.2**
全国	53,974.8	-4.7	-	-8.4	40,660.2	-4.1	-	-6.3	13,314.6	-6.5	-	-14.0

注：表中の赤枠は寄与度が高い TOP3 を示している。出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」より筆者作成(図 8～9 及び表 1)

トピックス 3

●2026 年 7-9 月期訪日外国人消費の動向

▶観光庁によれば、**2026 年 7-9 月期の訪日外国人消費額**(速報、全目的ベース)は(図 11)、**2 兆 2,076 億円**であった(25 年 7-9 月期：2 兆 1,384 億円)。**前年同期比+3.2%と、増加幅は前期(同+0.3%)**から拡大した。中国人客の訪日自粛の影響が続いているが、韓国、台湾や香港などが消費をけん引した。

▶**7-9 月期の訪日外国人消費額のトップ 5** を国・地域別にみれば(図 12)、**台湾**が 3,818 億円(前年同期比+26.2%)と**最多**であった。次いで、中国が 3,583 億円(**同-39.8%**)、韓国が 2,938 億円(同+45.8%)、米国が 2,409 億円(同+9.1%)、香港が 1,555 億円(同+37.1%)と続く。

▶**一般客 1 人 1 泊当たり旅行支出**(全目的)は 2 万 2,725 円であった。前年同期比+18.6%増加し、2 四半期連続のプラスとなった(4-6 月期：同+11.3%)。国・地域別にみれば、香港が 3 万 5,889 円(同+10.3%)と最も高い。次いで、シンガポールが 3 万 240 円、メキシコが 2 万 8,427 円、台湾が 2 万 8,281 円(同+24.8%)、韓国が 2 万 7,647 円(同+16.6%)となっている(表 2)。

▶**7-9 月期の 1 人 1 泊当たり旅行支出を費目別**でみれば(表 3)、宿泊費が 8,025 円(前年同期比+14.0%)と最も多く、次いで買物代が 6,260 円(同+29.8%)、飲食費が 5,212 円(同+17.4%)、交通費が 2,252 円(同+18.7%)、娯楽等サービス費が 970 円(同+1.9%)と続いている。伸び率をみれば、すべての費目が 2 四半期連続で増加した。なお、平均泊数は 10.3 泊と、前年同期差-1.2 泊減少した。

注：トピックス 3 は四半期ごとの掲載である。なお、ここでの「全目的」とは、観光・レジャー目的以外に、業務、留学、親族・知人訪問等の目的の旅行者を含む。ただし、1 年未満の滞在者が対象である。

図 11　訪日外国人消費額の推移

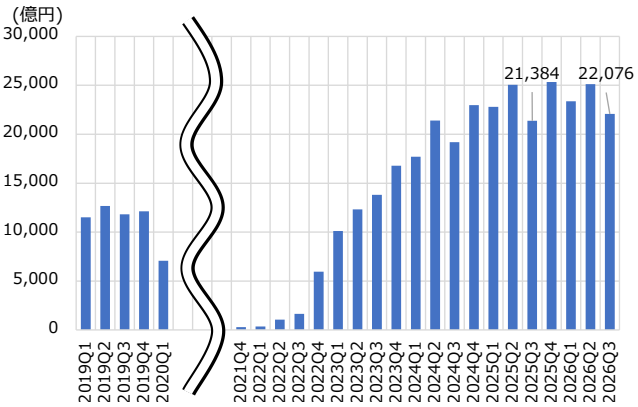
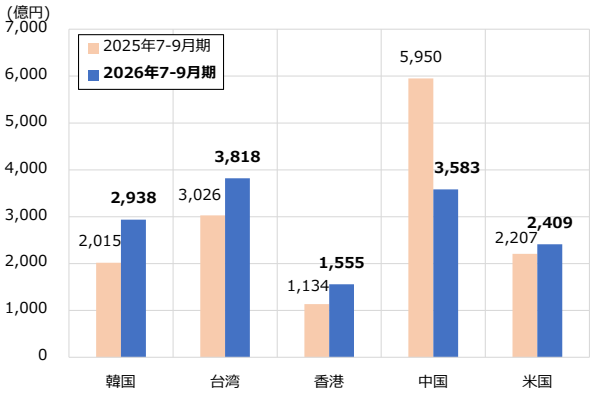


図 12　訪日外国人消費額の上位 5 ヵ国・地域：2026 年 7-9 月期



注：「訪日外国人」には、観光・レジャー目的に加えビジネス目的や親族･知人訪問目的などで日本を訪れた外国人が含まれる。日本に居住している外国人は含まれない。「クルーズ客」は船舶観光上陸許可者。2025 年までは確報、26 年 7-9 月期は速報。

出所:観光庁『インバウンド消費動向調査』より筆者作成(図 11～12)

表 2　国・地域別一般客 1 人 1 泊当たり旅行支出(全目的)：2026 年 7-9 月期

国･地域	全体	韓国	台湾	香港	中国	タイ	シンガポール	マレーシア	インドネシア	フィリピン	ベトナム	インド
2026年7-9月期(円/人)	22,725	27,647	28,281	35,889	22,958	19,291	30,240	18,841	12,155	8,134	6,446	14,064
2025年7-9月期(円/人)	19,157	23,717	22,666	32,534	21,191	11,238	18,236	15,396	8,344	9,363	6,615	11,595
前年同期比(%)	+18.6	+16.6	+24.8	+10.3	+8.3	+71.7	+65.8	+22.4	+45.7	-13.1	-2.5	+21.3
国･地域	**英国**	**ドイツ**	**フランス**	**イタリア**	**スペイン**	**ロシア**	**米国**	**カナダ**	**メキシコ**	**オーストラリア**	**北欧**	**中東**
2026年7-9月期(円/人)	26,177	22,505	19,513	23,511	20,058	25,540	26,243	19,384	28,427	26,719	25,293	22,042
2025年7-9月期(円/人)	23,151	19,687	14,595	25,719	23,388	23,886	21,386	16,689	N/A	25,369	N/A	N/A
前年同期比(%)	+13.1	+14.3	+33.7	-8.6	-14.2	+6.9	+22.7	+16.1	-	+5.3	-	-

表 3　一般客 1 人 1 泊当たり旅行支出(全目的)：2026 年 7-9 月期

1 人 1 泊当たり旅行支出	総額	費目別						平均泊数(泊)
		宿泊費	飲食費	交通費	娯楽等サービス費	買物代	その他	
2026年7-9月期(円/人)	22,725	8,025	5,212	2,252	970	6,260	6	10.3
2025年7-9月期(円/人)	19,157	7,041	4,440	1,896	952	4,822	5	11.5
前年同期比(%)	+18.6	+14.0	+17.4	+18.7	+1.9	+29.8	+30.1	-1.2

注：メキシコ、北欧及び中東は 2026 年から調査が開始されているため、2025 年同期と比較することできないことに注意。

出所：観光庁『インバウンド消費動向調査』より筆者作成(表 2 及び表 3)。

表 4　2026 年 9 月 訪日外客数 (JNTO 推計値) (前年同月比)

国・地域	総数　Total			総数　Total		
	2025年 9月	2026年 9月	伸率（%）	2025年 1～9月	2026年 1～9月	伸率（%）
総数	3,267,228	3,103,700	-5.0	31,651,327	30,730,200	-2.9
総数(中国除く)	2,491,571	2,672,900	7.3	24,163,819	27,394,700	13.4
韓国	670,563	842,300	25.6	6,793,644	8,262,700	21.6
中国	775,657	430,800	-44.5	7,487,508	3,335,500	-55.5
台湾	526,982	595,600	13.0	5,036,711	5,997,600	19.1
香港	149,472	145,000	-3.0	1,822,616	1,963,300	7.7
タイ	51,283	44,800	-12.6	815,804	835,400	2.4
シンガポール	40,495	43,000	6.2	430,467	472,000	9.6
マレーシア	43,826	35,300	-19.5	407,042	456,400	12.1
インドネシア	44,072	44,000	-0.2	449,080	495,200	10.3
フィリピン	51,615	42,800	-17.1	591,305	601,300	1.7
ベトナム	50,419	45,800	-9.2	529,810	551,100	4.0
インド	25,401	27,600	8.7	233,444	277,700	19.0
豪州	96,610	90,700	-6.1	755,278	771,900	2.2
米国	224,793	217,500	-3.2	2,397,825	2,522,800	5.2
カナダ	55,654	49,300	-11.4	494,656	518,900	4.9
メキシコ	19,735	22,300	13.0	137,931	173,500	25.8
英国	47,114	45,200	-4.1	391,944	410,000	4.6
フランス	38,825	35,700	-8.0	331,937	354,000	6.6
ドイツ	52,819	46,100	-12.7	319,395	327,600	2.6
イタリア	28,916	26,100	-9.7	227,864	233,900	2.6
スペイン	24,700	23,800	-3.6	179,007	194,300	8.5
ロシア	21,174	23,700	11.9	129,175	155,600	20.5
北欧地域	17,379	16,600	-4.5	139,950	155,600	11.2
中東地域	29,684	37,700	27.0	183,821	217,000	18.0
その他	180,040	172,000	-4.5	1,365,113	1,446,900	6.0

表 5　2026 年 7 月 目的別訪日外客数 (JNTO 暫定値) (前年同月比)

国・地域	総数 Total			観光客 Tourism			商用客 Business			その他客 Others		
	2025年 7月	2026年 7月	伸率(%)	2025年 7月	2026年 7月	伸率(%)	2025年 7月	2026年 7月	伸率(%)	2025年 7月	2026年 7月	伸率(%)
総数	3,437,118	3,442,310	0.2	3,161,501	3,192,300	1.0	98,506	85,258	-13.4	177,111	164,752	-7.0
韓国	678,566	894,715	31.9	649,535	867,010	33.5	13,742	13,631	-0.8	15,289	14,074	-7.9
中国	974,564	428,296	-56.1	893,601	365,292	-59.1	28,701	16,715	-41.8	52,262	46,289	-11.4
台湾	604,177	763,806	26.4	589,216	749,665	27.2	7,653	7,530	-1.6	7,308	6,611	-9.5
香港	176,019	272,495	54.8	172,314	269,083	56.2	1,561	1,755	12.4	2,144	1,657	-22.7
タイ	48,553	53,849	10.9	44,272	50,317	13.7	1,994	1,681	-15.7	2,287	1,851	-19.1
シンガポール	24,304	28,783	18.4	22,061	26,442	19.9	1,790	1,920	7.3	453	421	-7.1
マレーシア	18,112	23,771	31.2	15,905	21,860	37.4	1,333	1,163	-12.8	874	748	-14.4
インドネシア	37,612	38,988	3.7	23,699	22,637	-4.5	1,330	1,144	-14.0	12,583	15,207	20.9
フィリピン	47,366	45,048	-4.9	36,714	34,684	-5.5	4,364	4,514	3.4	6,288	5,850	-7.0
ベトナム	53,538	52,130	-2.6	15,556	19,262	23.8	3,246	2,938	-9.5	34,736	29,930	-13.8
インド	18,297	20,284	10.9	10,782	12,493	15.9	4,631	4,868	5.1	2,884	2,923	1.4
豪州	50,174	49,802	-0.7	47,521	47,175	-0.7	1,606	1,566	-2.5	1,047	1,061	1.3
米国	277,080	286,180	3.3	263,389	271,922	3.2	8,495	8,835	4.0	5,196	5,423	4.4
カナダ	52,087	56,021	7.6	50,478	54,419	7.8	705	701	-0.6	904	901	-0.3
メキシコ	19,778	23,065	16.6	19,415	22,680	16.8	168	162	-3.6	195	223	14.4
英国	37,098	41,475	11.8	33,529	38,164	13.8	1,836	1,843	0.4	1,733	1,468	-15.3
フランス	46,196	50,667	9.7	43,090	47,614	10.5	1,437	1,497	4.2	1,669	1,556	-6.8
ドイツ	28,087	29,797	6.1	25,046	26,806	7.0	2,192	2,058	-6.1	849	933	9.9
イタリア	21,833	25,268	15.7	20,179	23,751	17.7	1,077	962	-10.7	577	555	-3.8
ロシア	11,266	13,008	15.5	10,188	11,843	16.2	559	606	8.4	519	559	7.7
スペイン	24,056	27,899	16.0	23,117	27,094	17.2	413	426	3.1	526	379	-27.9
中東地域	19,993	28,212	41.1	18,603	27,047	45.4	772	755	-2.2	618	410	-33.7
その他	168,362	188,751	12.1	133,291	155,040	16.3	8,901	7,988	-10.3	26,170	25,723	-1.7

注：目的別訪日外客数の定義については、レポート No.79 図 3 の注を参照。表中の赤枠は過去最高を更新した国及び地域
出所：日本政府観光局(JNTO)、2026 年 10 月 22 日付より筆者作成(表 4～5)